

# 旭川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～岡山の政治・経済・文化の中心地を守る流域治水対策の推進～

R6.3 (2.0策定)

- 平成30年7月豪雨では、西日本各地で戦後最大を超える洪水となり甚大な被害が発生したことを踏まえ、旭川水系においても以下の取組みを実施する。
- 「このため、旭川及び支川百川の大臣監視区間に於ける河川整備等による河川整備の影響が想定される事態発達の方針」を参考して、河川整備等による災害の発生の所見又は、洪水等による災害の発生の所見又は、多自然災害に対する警戒意識を高め、多自然災害に対する警戒意識を高め、多自然災害に対する警戒意識を高めます。
- 旭川流域全体の本川上・下流、氾濫堤や導水堤等の施設は、旭川に沿うて特定都市河川浸水被害対策法の指定の範囲を含め、流域治水対策に資する情報を発信するため、浸水リスクを把握し、対応を進めます。
- これに加え、気候変動による豪雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う排水・導水地域の減少を踏まえ、部会にわたつて安全な流域を実現するため、浸水リスクの更なる検討を進めます。



